主催：桃山学院大学 国際教養学部 多文化共生シンポジウム

地域社会に生きるムスリム

多文化社会の実現に向けて

申込不要

入退場自由

どなたでもご参加いただけます

2024年3月20日（水・祝）

13:15～16:00（予定） 会場：桃山学院大学 聖ヨハネ館／聖ヨハネホール

このシンポジウムは、日本在住のムスリムが地域社会の理解を得ながら、自分たちの信仰の場であるモスクをどのように開設したか、
また、ムスリム墓地の建設を求めているかという二つの問題に焦点を当て、多文化社会の実現のために何が必要かを考えます。
研究者だけでなくムスリムの方々にも登壇いただき、それぞれが直面する課題と現状について報告します。
研究者はもちろん、近隣自治体の国際化担当者や高校教員・生徒など幅広くご参加いただき、
日本の地域社会で暮らすムスリムに対する理解を深める機会としたいと思います。

桃山学院大学
St. Andrew's University

お問合せ先
〒594-1198 大阪府和泉市まなび野 1-1
TEL：0725-92-7062（学部事務室）
※土日祝を除く。別途休業日を設ける場合もございます。ご了承ください。

桃山学院大学Webサイト

プログラム（予定）

開会

- 開会挨拶　中野瑞彦　桃山学院大学 学長
- 趣旨説明：本シンポジウムについて　小池誠　桃山学院大学国際教養学部 学部長

第一部

「パキスタン人移民によるモスク設立の経緯と現状」　福田友子　千葉大学

モスクは、本来、特定のエスニック集団のためのものであってはならないが、移民がホスト社会で設立する場合、実質的に特定のエスニック集団が集中する事例は多い。1990年代に日本でパキスタン人移民が主導して設立したモスクも同じであった。その後、約30年が経過し、日本人を含む多国籍モスクへと変容した事例も見られる。本報告は、千葉のモスクの事例を中心に、設立経緯とその後の変容、古いモスクの活動から派生した新しいモスクの活動について報告する。

「埋葬の自由を求めて（Battle for Burial）」　Khan Muhammad T.（カーン・ムハマド）　立命館アジア太平洋大学

（英語による発表：通訳）

現在の国際世界秩序は人権に基づいている。このシステムはすべての人に自由を保証している。すべての社会と、国家、民族には独自の習慣や伝統がある。個人の死に際して行われる葬儀は文化の非常に重要な部分である。尊厳ある埋葬は基本的人権であるため、人々は自分たちのやり方で葬儀を行うことが許されるべきである。さらに別府ムスリム協会とその様々な活動についても取り上げる。（原文は英語）

第二部

「大阪イスティクラル・モスク（Masjid Istiqlal Osaka）の開設と今後」

Herizal Adhardi（ヘリザル・アダルディ）　大阪イスティクラル・モスク

最初になぜ大阪イスティクラル・モスクを西成区に建てようと考えたのか、その経緯を説明する。そのために必要な資金をどのように集め、地域社会の理解を得て現在のようなモスクの完成に至ったか、明らかにしたい。現在は多くのムスリムが金曜礼拝に参加し、大阪におけるムスリム・ネットワークの中心になっている。今後、どのようにモスクでの活動を発展させたいか、抱負を述べたい。

「日本に育った青年イスラーム教徒たち ―『ヤングムスリムの窓』プロジェクトの試み」　野中葉　慶應義塾大学

多くの日本人にとってイスラームは「異国」の宗教であり、イスラーム教徒は、時に差別や偏見に晒され、また観察され、支援される対象でもある。本発表では、日本に育ち、日本語を話し、日本の教育を受け、日本の文化や価値観の中で生きる若いイスラーム教徒たちにスポットを当てる。発表者が彼らと実践している映像制作発信プロジェクト「ヤングムスリムの窓」の紹介を通じて、日本に根付くイスラームの一端を明らかにする。

「ムスリムにとっての礼拝と喜捨 ―信仰の二柱」　貞好康志　神戸大学

イスラームの信仰実践の柱として、信仰告白・礼拝・喜捨・断食・巡礼の五つが挙げられる。このうち、毎日の暮らしの中にありモスクとも深く関係する礼拝と喜捨を取り上げる。1日5回の定めの礼拝（サラート）はどんな思いを込めて行なわれるのか、日本人ムスリムでもある立場から解説する。また、制度喜捨（ザカート）と区別される自由な喜捨（サダカ）が日本を含む世界中のモスク建立の大きな基盤となっていることを述べる。

総合ディスカッション

ACCESS　[和泉キャンパス]へのルート

アクセスはこちら

● 泉北高速鉄道「和泉中央駅」から徒歩で約12分